

チーム名	きたまちLabo	大学・学部	福井工業大学環境情報学部デザイン学科	北陸ステージ
プラン名称	回帰 忘れられたあの頃を探しに			
リーダー名	女川 拳吾	テーマ	北陸ならではの資源を活かした広域周遊型の「観光まちづくり」	本選出場 オーディエンス賞
指導教職員名	三寺 潤			
メンバー名	女川 拳吾、向井 奈々、林野 芳洸、畑下 楓			

①問題認識とプランの提案

2025年に、北陸新幹線の金沢駅-敦賀駅間が開業し、将来的には、大阪までつながる予定。

↓
特急を含める在来線がなくなり、第三セクター鉄道に生まれ変わる

〈第三セクター鉄道におけるデメリット〉

- ・従来の特急がなくなる
- ・移動に時間がかかる
- ・停車駅が多い
- ・乗り継ぎが大変

↓
でも、これはメリットと捉えると...

- ・ゆっくり移動が楽しめる
- ・新しい出会いや、発見がある
- ・まちに出て、住民との交流が生まれる

第三セクター鉄道を利用した観光プランの提案

回帰。

忘れられたあの頃を探しに。

For: MIKUNI NANA IWASE



コンセプト

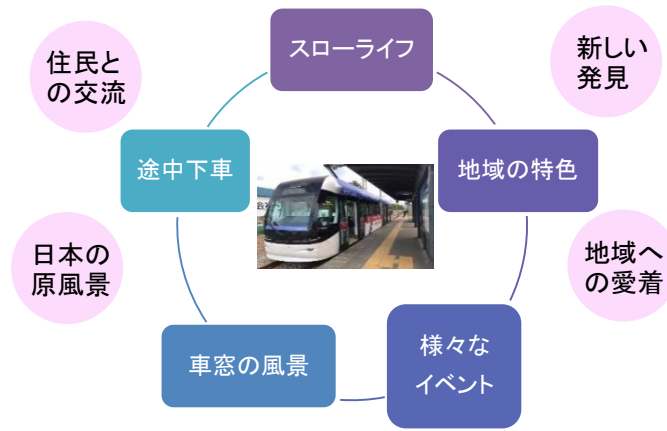
忙しい日常から離れて、少し昔に戻り、日本の原風景に触れ、懐かしさや愛着を感じる旅

②プランの詳細

回帰-忘れられたあの頃を探しに-

: 忙しい日常から離れて、少し昔に戻り、日本の原風景に懐かしさや愛着を感じる旅

Point1 第三セクター鉄道を移動の軸としたプランであること



さらに、北陸新幹線の開業によって、福井県のJRが第三セクター鉄道になる
→ **こうふく鉄道(仮)**

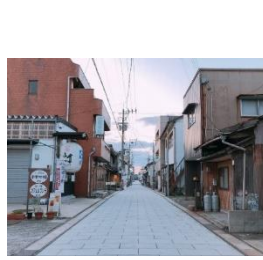
観光バス等、目的地に直接移動することが可能な交通機関をなるべく避け、第三セクター鉄道を利用することによって乗り換えを促す。
→ **その地域の風土と住民に触れ合う**

Point2 宿泊には、敢えてゲストハウスを選択 町家を体感し、地域との触れ合いを生み出す

↓
その地域に愛着が生まれる

Point3 北前船の寄港地である、3起点を選んだこと

昔、北前船は、それぞれの寄港地に富・文化・つながりをもたらし、港町を潤わせる重要なものであった



三国
長屋など、伝統的なまち並みを活かしつつ、時代に沿った新しい商いが混在する。まち歩きをすることによって、三国ならではの特徴的な地形を楽しむことができる。路地の間から見える海や緑が印象的である。



七尾
連続テレビ小説「花嫁のれん」の舞台として有名になったまち。一本杉通りには、古いお店が今も多く残っている。特に、花嫁のれん館はまちの華やかな伝統文化を承継する重要な役割を担っている。



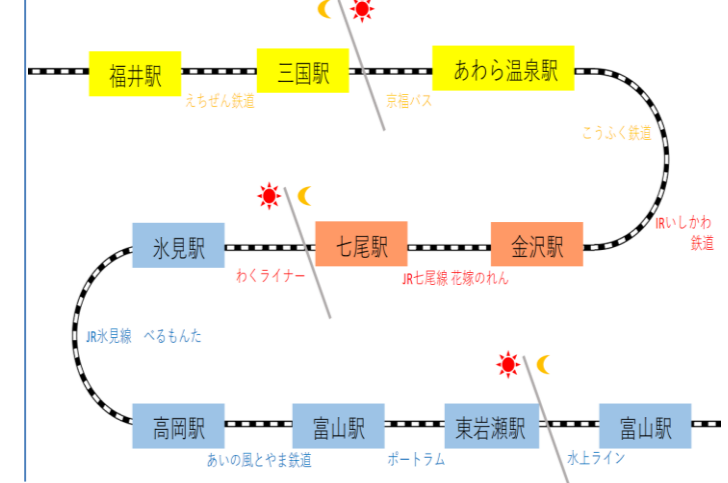
岩瀬
運河が特徴的な歴史あるまち。伝統的な街並みが北前船によって栄えた時代を思い起させる。今では北前船に代わって運河を利用した新しい交通手段がまちに潤いを生み出している。

→古き良き時代を空想しながら、かつては繋がりのあった地域を廻り「回帰」を体感する。

旅の流れが無駄のない一筆書きになっている



旅の細かな流れ



③現地調査



現地調査場所: 福井、三国、金沢、七尾、和倉温泉、氷見、富山、魚津、宇奈月温泉、黒部

1. 現地調査 (第三セクター鉄道の乗り継ぎ・まち歩きetc.)
2. 北陸全体のイメージを感じる (スローライフ・日本の原風景etc.)
3. 実際にどこの地域をプランに盛り込むか選択
4. 第2回現地調査
5. プラン詳細を決定

④ターゲット

外国人を含めた
時間に追われる現代人
有給休暇を使った3泊4日の旅

↓
回帰を通して、リフレッシュ



⑤新規性

- ・第三セクター鉄道をテーマにしたプランであること
- ・北陸の景色を日本の原風景として捉えること
- ・敢えて有名過ぎない、北前船の寄港地を繋げたプランであること



⑥効果・展望

